

監 修 に あ た っ て

日本証券アナリスト協会が創立50周年を迎えるときに、この用語辞典をお届けできることは、協会の副会長であるわたくしども二人としても喜ばしい限りである。

株式分析の考え方が整理され世に示されてから80年あまり、その間、投資・ファイナンス分野の理論構築の進展は著しく、それと軌を一にするテクノロジーの進化は、証券・金融市場の発展とそこでの商品の進化・多様化を促進してきた。この分野で知りたい専門用語、確認したい用語はいまや数多くある。すでにこの分野で活躍している社会人も、これからその分野に進みたいと考えている学生も、さらには直接には関わりなくとも一般個人投資家としても、そばにおいておきたい用語集というものが必要である。

今回、創立50周年を機に刊行されたこの「証券分析・投資運用 用語辞典」の監修に当たり、アカデミックな世界の新井と運用実務世界の大場とが、それぞれの目線でみたものである。各項目の説明はコンパクトなものとするように心がけた。いずれも実務上も試験対策上も、実際に役立つ用語ばかりであり、その理解を深めてくれるものである。項目の選択に当たっては、次のような方針とした。

- ① 証券アナリスト検定会員や通信教育講座受講者が確認するために利用でき、かつ一般の実務家・学生あるいは学者にとっても利用価値のある辞典とする。
- ② そのため、証券分析用語中心としつつ、関連する経済や財務分析分野の用語を盛り込む。ただし、時事的なものは避け、かつ通常の経済金融用語よりも専門性の高い用語とする。
- ③ 具体的には、理論的項目の進展の著しい、ファイナンス理論、行動ファイナンス、コーポレート・ファイナンスといった分野の最新の用語を取り込む。
- ④ また、実務的な分野で重要度を増している年金、投資信託、デリバティブ、IFRS等の用語の採択を進める。

この辞典は、今後もアップデートしていくことを前提としている。利用者からの多くのご意見はこの辞典を一層使いやすい有用なものにしていく材料となるものであり、執筆者に代わり、是非お願いする次第である。

2012年10月

東京大学大学院経済学研究科教授 (CMA) 新井 富雄
東京海上アセットマネジメント投信代表取締役社長 (CMA) 大場 昭義